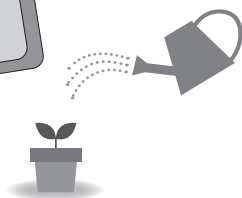


今月の ブックトーク



7月(文月)「七夕の日」

前田 由紀

／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭

7月7日の夜に彦星と織姫が年に1度天の川を渡って会うという古代中国の伝説があり、日本でも万葉集で山上憶良が「久方(ひさかた)の 天の川瀬に舟浮けて 今夜か君が 我(わ)がり来(き)まさむ」と詠んでいるように古くから親しまれている行事です。

前回6月は宮沢賢治の父親のお話でしたが、今回は賢治の代表作『銀河鉄道の夜』から始めましょう。作品の出だしは、七夕の舞台でもある「天の川とは何か」と先生が授業で生徒にたずねます。主人公ジョバンニは、気の弱いいじめられっ子の少年でしたが、親友の心優しいカンパネルラがいて、ある夜銀河鉄道に乗って二人は不思議な旅をします。ジョバンニは、カンパネルラに「どこまでもどこまでも一緒に行こう」と呼びかけ、また「ほんとうのさいわいはいったい何だろう。」と問いかけます。



宮沢 賢治・著
KADOKAWA
(角川文庫)

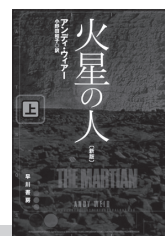
次に、夏の星空を実際に眺めてみましょう。ナショナルジオグラフィック別冊『星空マップ 星座と天体観測入門ガイド』で、夏の大三角、こた座のベガ、



ナショナルジオグラフィック・編
日経ナショナルジオグラフィック

はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイルを観ることが出来ます。七夕では、ベガが織姫、アルタイルが彦星と言われています。ナショナルジオグラフィックは、アメリカ創刊1888年、世界36か国語で出版されている月刊誌で掲載写真に定評がある学術誌です。公共図書館の雑誌コーナーにも置いてあるので、今度のぞいてみてくださいね。

近頃、火星も身近な存在となってきました。NASAの探査車Curiosity、周回機MAVENなどが現在活動しています。JAXAでも火星衛星探査計画MMXが進行中です。アンディ・ウィアー著『火星の人』で一足早く宇宙飛行士になって火星探検をしてみましょう。主人公マーク・ワトニーは、火星探査船の乗組員でしたが事故により一人火星に取り残されてしまいます。彼は生物学者でメカニカルエンジニア



アンディ・ウィアー・著
早川書房 (早川文庫SF)

だったので、彼の全知能と技能を結集して地球への帰還を試みます。自分で考えた一つ一つの課題をこなしていく実験過程が見所です。空気調整、温度管理、水の生成や食料確保、基地内にジャガイモ畑まで作ってしまいます。深刻な状況ですが、彼のユーモアセンスと楽天さで読んでいて楽しくなります。

最後は、AIの次は宇宙開発だと言われている『宇宙ビジネス』についてです。もうすでに人工衛星を利用して高精度なGPS位置情報により物流、航海、ナビ、マーケティング、自動走行、気象等あらゆる



中村 友弥・著
クロスメディア・パブリッシング

分野の日常生活で欠かせない存在です。ポケモンGOもその恩恵のひとつですね。これからは宇宙太陽光発電、バイオテクノロジー、資源調査など広大な宇宙にさらに広がっていくようです。「宇宙ビジネスは、国数英社理の総合格闘技」と著者は言っています。中高時代の全科目の勉強が宇宙ビ

ジネスのみならず世の中の中の仕組みを知る土台となっていると分かれば、中高生は十分に勉強する意味を見出せるのではないのでしょうか。

最後のページのクイズの答え： Q1 ② 炎色反応 Q2 ② バスティーユ牢獄 Q3 (どれも理由ではあるけれど) ② 夏は歌 舞伎(かぶき)の役者たちが休みに入るため、代わりの出し物として Q4 ① 平賀源内

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご利用ください。

